

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 14 章 25～35 節＞

1 なぜ急に話の内容が変わったのか？ イエス様の話の聞き手に注目。

これまでの内容とガラッと変わっています。なぜか？ 語る相手がイエス様について来た大勢の群衆に変わったからです。「この人々は、私がこれから十字架につくためにエルサレムに行くことを知らないでついて来ている」、そう思われたから語られたイエス様の言葉なのです。ですから、「～しないなら、わたしの弟子ではあり得ない」と語られた三つの内容は非常に厳しいと思える内容だったのです(26, 27, 33)。

2 主を信じて進むための費用、ほかの王と戦う兵力とは何を指すか？

この三つを説明するために語られた二つの例え話は何を言われたかったのでしょうか。塔を建てるためには完成できるまでの費用があるかどうか、敵と戦うためには少ない軍勢で勝てるかどうかをまず考えるべきだろうと話されました。つまり、「あなたたちは私について来るにあたり、同じことをしたか」と問われたのです。イエス様に従い通せるのは、主の十字架の死が普通の人の目には無価値に見えても、実際は破格の力を生む莫大な価値を持っていることを知っている者です。最後に語られた塩気がなくなった塩の例え話を、塩を「キリスト者」、塩気を「イエス様の十字架の死が持つ意味」と解釈すれば、以上のことがよく理解できます。イエス様に従い通すことは、神様がイエス様によってなされたことを本当に理解していなければできないし、理解したならば、何にも代え難い私たちが生きる確かな土台となるのです。

3 分かってから信じるものなのか？ イエスであり、ノーでもある。

しかし大事なことが一つあります。イエス様の十字架の死が持つ意味をこの時分かっている人は弟子たちを含めて一人もいなかったし、無理解な言動をする弟子たちをイエス様は去れとは言われませんでした。イエス様を信じる信仰は聖書を学んでいく中で身につけていくものなのです(26 節の内容の真意は、12 章 49～53 節から学んだことから考えると分かる。また、「憎む」は恨み憎むの恨みではなく「遠ざける」の意味で理解すべき)。聖書に出て来る信仰者たちも今の私たちも、誰も始めからイエス様の全てを理解できた人はいません。一方、イエス様や聖書に魅かれたことも事実でしょう。それはなぜかを聖書に真剣に追及していく中で、イエス様への信仰は確かなものに導かれていくのです。